

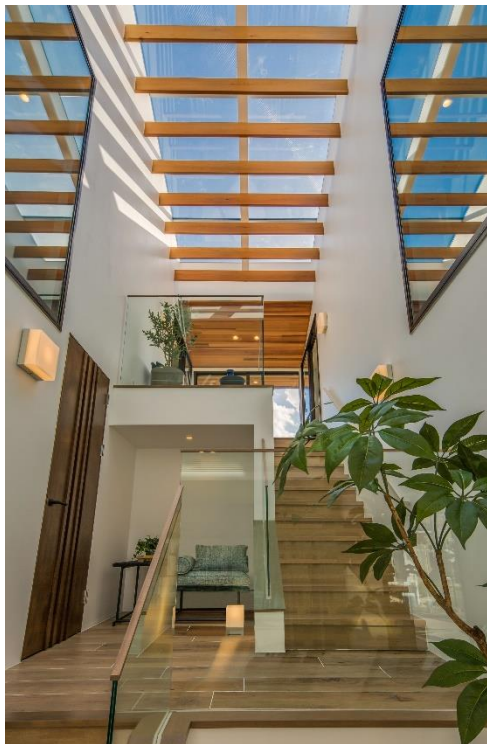


**GOOD DESIGN
AWARD 2020**

「グッドデザイン賞」18年連続受賞

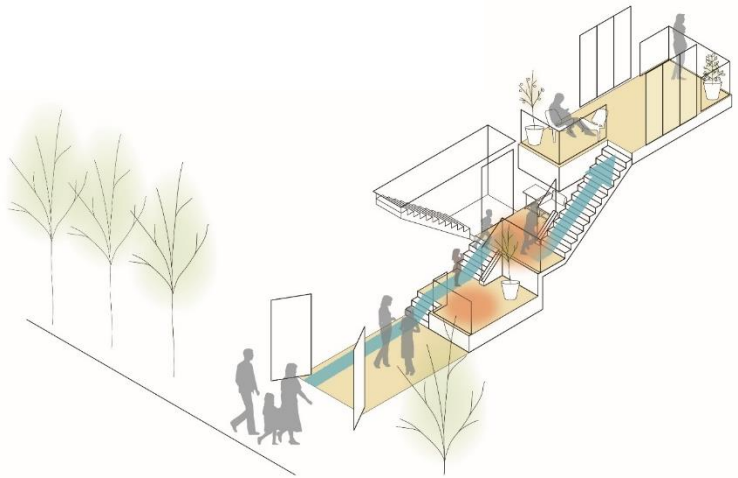
戸建住宅「J・レジデンス春日井」「J・レジデンス水戸」
共同住宅「セントラルレジデンス笹塚」「グランドヒルズ元麻布」

住友不動産株式会社(本社:東京都新宿区、代表取締役社長:仁島浩順)は、財団法人日本デザイン振興会主催の「2020年度グッドデザイン賞」において、下記の4物件を受賞いたしましたので お知らせいたします。なお、今回の受賞により弊社は18年連続の受賞となります。



通り路イメージ図

通り路に「たまり場空間」を設け
近隣を呼び込み、地域活性の流れを生む。



<J・レジデンス春日井／通り路のある家>

2020年度 受賞物件一覧

1.戸建住宅「J・レジデンス春日井」/ 愛知県春日井市
様々な流れを生み出す“通り路のある家”

2.戸建住宅「J・レジデンス水戸」/ 茨城県水戸市
nLDKに縛られない、ゆとりの「0.5」空間が新しい家

3.共同住宅「セントラルレジデンス笹塚」/ 東京都中野区
「設備シャフト」を外観形成の顔とし、機能と意匠の両立を実現

4.共同住宅「グランドヒルズ元麻布」/ 東京都港区
歴史を継承する「石垣」が繋ぐ、家と街

また、この他に大手デベロッパー含む6社(内1社は再開発組合)の共同開発によるエネルギーセンターと分譲マンション「北4東6周辺地区第一種市街地再開発事業 ザ・タワーズフロンティア札幌」においても受賞しております。

<本件に関する報道関係者お問い合わせ先>

住友不動産株式会社 広報部 服部 TEL:03-3346-1042

1.戸建住宅「J・レジデンス春日井（戸建て～小規模集合住宅 受賞）」

様々な流れを生み出す“通り路のある家”



＜通り路が生み出す“たまり場空間”＞

かつて路地は、地域住民が集い賑わうコミュニケーションの場として活用されてきましたが、街の開発と共に減少し、住民同士の繋がりがや地域コミュニティも失われつつあります。

本提案では、街の延長となる“路地空間”を近隣居住者や家族間における交流の場とし、二世帯住宅内部の中心に引き込みました。

住宅と街の中間領域となる空間を設けることで、世帯も地域も自然と混じり合う新たな交流の流れを生み出す提案です。

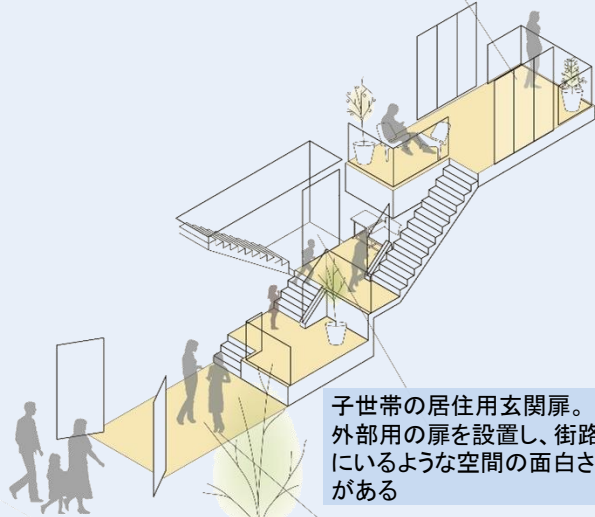


＜通り路を内包している建物外観＞

■地域活性化の流れを生む「たまり場空間」

外部からの延長であり、二世帯どちらにも属さない路地空間に、滞在を促す複数の“たまり場空間”を設け、気兼ねない訪問を可能にしました。

外に突き抜けたようなバルコニーは隣家や道行く人との交流の場に



二世帯の居住用玄関扉。外部用の扉を設置し、街路にしているような空間の面白さがある

玄関に近く、土足で入れるため近隣住民が気軽に立ち寄れる

■二世帯を繋ぐ中間領域「あいまいゾーン」

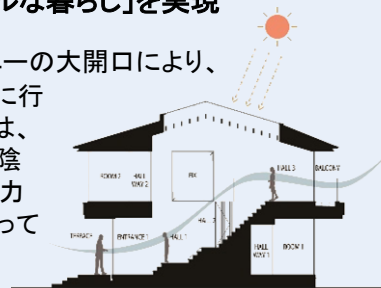


親世帯ゾーン 子世帯ゾーン 共用ゾーン

通り路は、二世帯の動線が重なり、より自然に会話が生まれる家族団らんの場となります。

■風や季節の流れを取り込む、「サスティナブルな暮らし」を実現

天窓やバルコニーの大開口により、採光・通風が室内に行き届く半外空間には、ルーバーによる陰影も相まり、より魅力的な空間設計となっています。



《審査員コメント》

路地を住宅の中に引き込むというアイデアが評価された。住宅を街に対して閉ざしたものとするのではなく、プライバシーを守りながら街に開いていこうとする姿勢は重要である。路地は立体的に展開し、上下の2世帯住宅を繋ぐ場としても機能している。ルーバーを通した光が入り、風が抜ける外部のような場になっているところが良い。住む人がここで街を見ながら過ごすことで、近隣とコミュニケーションを取るのにも役に立つことであろう。

受賞物件 概要

所在地 愛知県春日井市
階数 地上2階
構造種別 木造

2.戸建住宅「J・レジデンス水戸」 (戸建て～小規模集合住宅 受賞)

nLDKに縛られない、ゆとりの「0.5」空間が新しい家

本物件では、時代と共に変わりゆく家族構成やライフスタイルの変化に沿わずに長らく定着してきた「nLDK」という間取りの概念を払拭し、新しく心地よい住まいづくりを目指しました。

内外の境界を曖昧にする中間領域や外部を取り込む半外空間など、空間の区切りを「1」ではなく曖昧にするゆとりの「0.5」空間として建物に複数内包することによって、多様なライフスタイルに応える心地のよい豊かな住空間を提案しています。



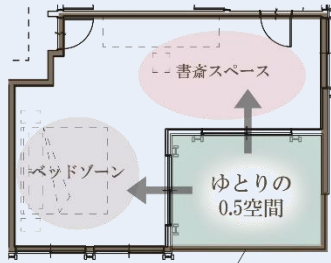
<水平ラインがつくるシャープで洗練された外観>

内を削って外部を取り込んだ「0.5空間 バルコニー」



<バルコニーを室内の延長として利用するイメージ>

従来とは異なり、細長くなく奥行きのあるバルコニーを四角形の居室の隅部を切り欠くように設けました。内と外の中間領域となる、ゆとりのある半外空間としています。



懐の深い軒により、天候も気にせず、気軽に外気に触れ、忙しい日々の僅かな休息時間をも充実させるゆとりの空間を演出しています。

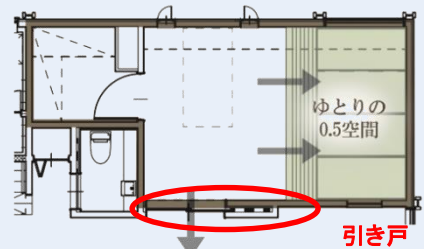
外に繋げ内部を拡張して生まれた「0.5空間 浴室」



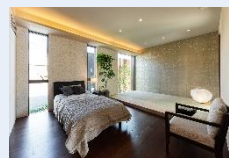
<内にいながら外を感じる浴室>

軒と浴室の“天井の高さ”、“素材”を揃える室内外の一体感の演出、ガラスの二面開口による外への広がりを感じられる内部空間とし、プライバシーも守りつつ疲れを癒す空間を提案しています。

内包しながらも開放する「0.5空間 フレキシブル居室」



リビングと繋がる



<ゆとり空間のある親の居室>

複数世代が同居する物件として、親のプライベート空間と共用のリビングスペースとの境に調整可能な大きな引き戸を配し、領域を曖昧にしました。

《審査員コメント》

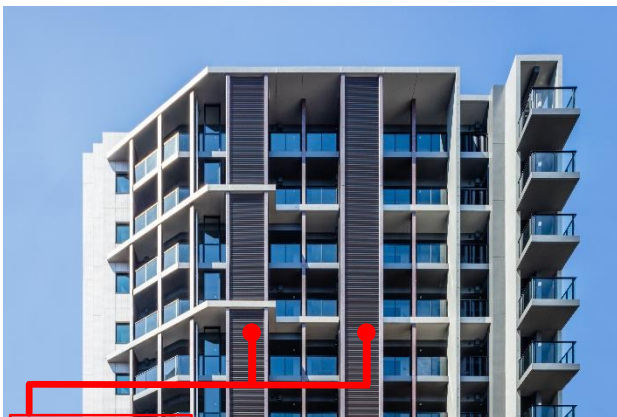
コーナーに2面の開口を設けることや、軒を室内から繋げて、外部空間へ伸ばす手法をとるだけで、暮らしの豊かさは格段に高まることを感じさせてくれる。最小限の操作であるがゆえに、建物のプロポーションが美しく整えられた清々しいデザインコントロールは秀逸である。

受賞物件 概要

所在地 茨城県水戸市
階数 地上2階
構造種別 木造

3.共同住宅「セントラルレジデンス笹塚」 (中～大規模集合住宅部門 受賞)

「設備シャフト」を外観形成の顔とし、機能と意匠の両立を実現



S-マルチコア

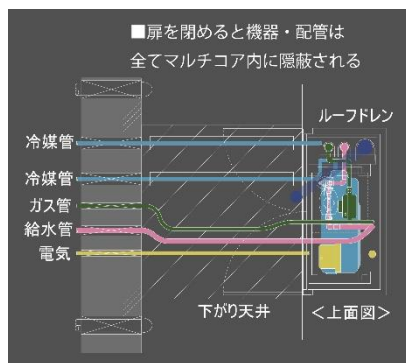
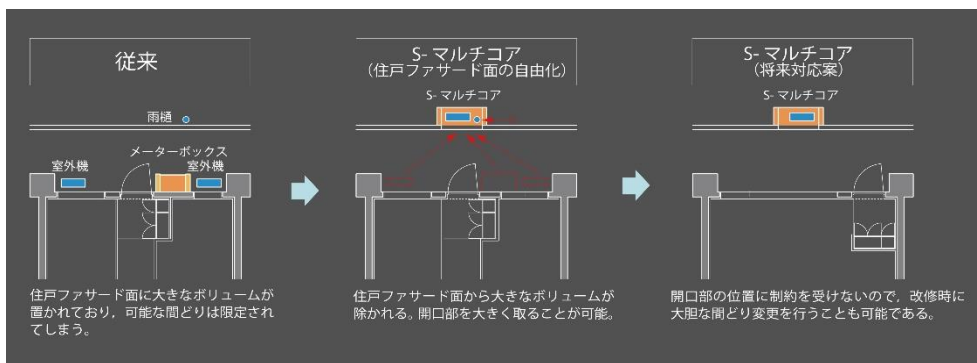
マンションの基本計画において、住戸計画や設備設計を先行・重視し、配管設備が廊下に雑多に露出され、居住性を損なうことが多々あります。

この問題を解決するために設計プロセスを転換し、計画の初期段階から配管設備類を「外観を形成するコンテンツ」として捉え、ファサードデザインの一部に位置づけました。

弊社独自商品『S-マルチコア』システムを採用することで、配管設備類を「設備シャフト」に集約し、共用廊下設備の乱雑な露出を防ぎました。シャフトをルーバーで覆い、垂直を基軸としたデザインで外観を形成し、内外共に機能と意匠の両立を実現しました。

建物の更新性を高める『S-マルチコア』

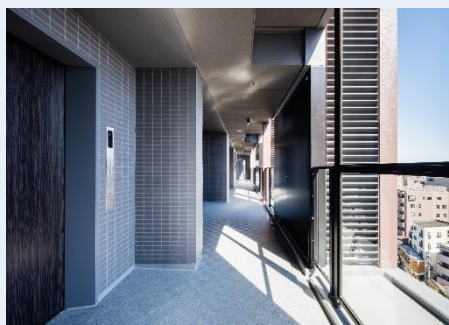
埋め込み型とは異なり、外廊下側からの直接点検を可能とし、メンテナンス性を飛躍的に高めています。



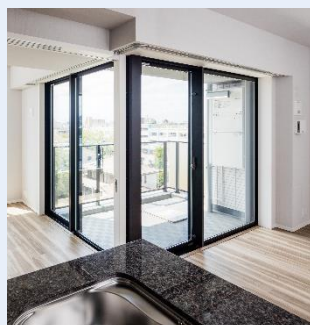
■廊下、バルコニーも広々した空間に

動線の障害物となるメーターや室外機類を設備配管ゾーンに集約した結果、歩行性の向上や室外機の熱籠り問題が解消され、安全で快適な外廊下が誕生しました。

LDバルコニーの室外機も『S-マルチコア』に集約されることで、室内と連続した広いスペースとして活用できます。



<交流の場としても活用可能な広い廊下>



<室外機の凹凸がないバルコニー>

■「設備シャフト」が与える、彫りの深さが印象的なファサード



<垂直を基軸としたデザインの外観>

《審査員コメント》 ※一部略、弊社HPにて全文掲載

集合住宅の設計をしていると、最後に困るのがメーターボックスや給湯器、空調の室外機の置き場である。本プロジェクトではまさに最初から設備シャフトを考えていて、むしろ設備機器シャフトのアイデアによって集合住宅が統合されている。住戸から切り離して設備が集約したシャフトを設けることで、廊下が美しくなり、バルコニーから室外機が減り、外観にも面白さや奥行きが生まれ、設備機器の更新などのメンテナンス性も増している。このアイデアが普遍化してくと、日本の住環境はもっとよくなっていくナイスアイデアだと思う。

受賞物件 概要

所在地 東京都中野区
総戸数 39 戸

構造・規模 鉄筋コンクリート造り 地上11 階建
竣工年 2020 年1 月

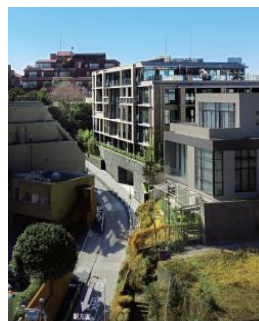
4.共同住宅「グランドヒルズ元麻布」 (中～大規模集合住宅部門 受賞)

歴史を継承する「石垣」が繋ぐ、家と街



＜斜面地から見る、石垣が印象的な外観＞

元麻布の自然豊かな景観と先進的な建物が点在する場所に位置した本物件では、街並みとの調和が求められると考えました。建物ボリュームを最小限に演出するため石垣を継承、建物上部の開口部のみ低層建物のデザインを加えて浮遊感を演出しています。



＜物件周辺の斜面地＞

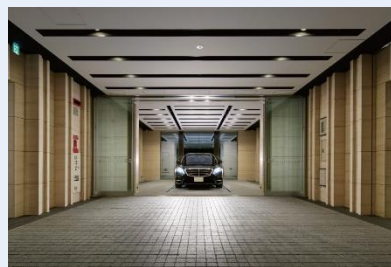
歴史を継承する石造りを利用し、周辺環境との連続性を作り出し、建物による周囲への圧迫を軽減した、斜面地の特徴を活用したデザインとしています。

■建物のボリュームを「石垣」によって、リフトアップ

エリアに多く見られる「石垣」の構えを基壇部に取り入れ、街との調和を図りつつ、建物ボリュームを上配置することで軽快感を演出しています。



■駐車場に、「品」という付加価値を



＜サブエントランスに相応しい駐車場入口＞

屋内機械式駐車場は、元麻布アドレスに相応しく、駐車場という機能だけではなく、一見すると駐車場とは分からないガラスのオートドアやショーケースのようなサブエントランスの演出を施し、品のある心地よい空間を創出しています。



＜軽やかでシンボリックなファサード/東側立面＞

《審査員コメント》

地域との関係を建築の設計に落とし込むには、いくつかの考え方がある。地域のひとやコミュニティに注目する方法、文化的な特徴をデザインに落とし込む方法などだ。この建築がここで試みたのは、集合住宅などではあまり行われない、極めて即物的な「石垣の連続性」だ。これは前述した手法に比べて、おそらく目立つ販売文句にもなりづらいであろう一方で、実際にこの建築を訪れたときに感じられる周囲との連続感は、きっと感動的なのではないかと思う。決して派手ではないが、意思のはっきりした作品である。

受賞物件 概要

所在地 東京都港区
総戸数 32戸
構造・規模 鉄筋コンクリート造り 地上5階、地下1階
竣工年 2018年2月

<参考>

■中～大規模集合住宅部門 受賞

エネルギーセンターと分譲マンション

「北4東6周辺地区第一種市街地再開発事業 ザ・タワーズフロンティア札幌」

※本物件は、大和ハウス工業株式会社(事業主体)、北4東6周辺地区市街地再開発組合、株式会社大京、北海道瓦斯株式会社、住友不動産株式会社、株式会社フジタの共同事業です。



<外観>

「北4東6周辺地区第一種市街地再開発事業」は、34,000㎡超の敷地内に、高層ツインタワー分譲マンション「ザ・タワーズフロンティア札幌」や、エネルギーセンター、商業施設、福祉施設、広場、体育館などを集結させた大規模複合再開発事業です。

本事業は、住宅・商業複合地区「にぎわい・居住ゾーン」、公共公益地区「スポーツ・エネルギーゾーン」、医療・福祉地区「医療・福祉ゾーン」の3つに区分された事業です。本事業の中心には、環境にやさしく、災害にも強いエネルギーセンターを計画。低炭素社会の実現およびエネルギーが有効活用できるよう、新たなエネルギーネットワークを形成しました。

また、各建物にはCEMS※1を導入するとともに、建物同士をつなぐ空中歩廊を利用した通信網を整備することで、エネルギー(電気・熱)の一元管理と見える化を行いました。

※1. 地域全体のエネルギーを管理するシステム。「コミュニティー・エネルギー・マネジメント・システム」。

【デザインのポイント】

- 天然ガスコージェネレーションや再生可能エネルギーを導入することで、省エネ・低炭素化を実現
- 停電時にも電力や温水を供給することで、本事業全体を強靱化
- CEMSによるエネルギーネットワークの最適化を実現



<ザ・タワーズフロンティア札幌>



<停電時の共用部照明イメージ>



<空中歩廊>

《審査員コメント》

分散型のエネルギー供給における試みとして、秀逸なプロジェクトである。注目すべきは、中心となっているエネルギーセンターからエネルギーを供給する三つの施設のエネルギー利用のピークが異なることを活用した、効率化である。分散型では、単位を小さくするほどこうしたバランスはとりにくくなるはずだが、本プロジェクトでこれをみごとにやり遂げている。今後、三つの施設の一つだけが別の用途に転用されるといったことが起こる時に、この計画がどのように調整可能なのか、興味が湧く。

受賞物件 概要

所在地 北海道札幌市

総戸数 275戸

構造・規模 鉄筋コンクリート造り一部鉄骨造 地上21階、地下1階、塔屋2階

竣工年 2019年7月